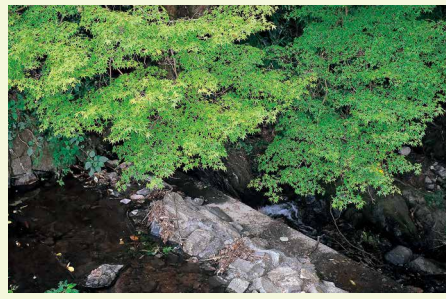


中学生連載企画

私たちのふるさと松山学 No.43



吉藤川

なぜ吉藤川からホタルはいなくなつたのか

昔から吉藤川は清流で、小魚が泳ぎ、初夏にはホタルが乱舞していたそうです。しかし、昭和30年代にかんきつブームが起こり、吉藤川上流一帯もみかん畑となりました。少しでも収穫量を上げようと、害虫駆除のために川沿いにポンプ小屋を建て、スプリンクラーで農



吉藤川を散策

鴨川中学校

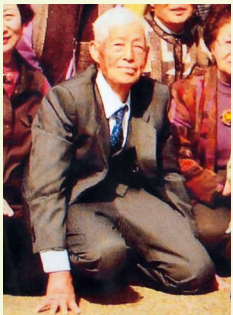
吉藤川にホタルを復活 石橋道則さんの取り組み

私たちは夏休みに、吉藤川にホタルを復活させた石橋道則さんについて調べました。調べるにあたり、地域の関係者からお話を聞くことができました。

薬を山一帯にまいていました。その頃使われていた農薬は、使っているうちに害虫たちが薬への耐性を付けて効かなくなり、さらに強い農薬にするという悪循環になっていました。そのうち川は農薬で汚染され、その結果、徐々に生き物たちは姿を消し、ホタルも見られなくなりました。

ホタル復活に向けて立ち上がった石橋道則さん

そんな地域の環境に悲観し、立ち上がった人がいました。地元に住む石橋道則さんです。石橋さんは、果樹はできるが、自分の住んでいる地域がこれではいけない、きれいな環境を未来の子どもたちに残したいと考えるようになり、生き物がいなくなった川は汚く、壊れた自転車やバイクが平気で川に捨てられていました。それでも石橋さんは文句ひとつ言わず、黙々と川の掃除を行いました。また、農



石橋道則さん

家を訪れ、農薬を減らしていくようお願いをしました。しかし、虫がついて品質が落ちてしまうことと生活が成り立たなくなるため、農家の人たちはなかなか賛同してくれませんでした。それでも石橋さんはあきらめることなく、説得と同時にホタルがいる地域を回って研究を重ね、ホタルのえさになるカワナが繁殖できる環境づくりに進めました。そして行動し始めてから10年後、ようやくホタルが戻り始めました。そのホタルを見た時、石橋さんは「ようもんでくれたのう」と涙を流して喜んだといいます。今ではどんなに雨が降り、川が増水しても、必ず時期になればホタルが見られるといいます。そして毎年5月末ごろにはホタル観賞会が開かれ、子どもたちの声が「ホタルの里



潮見公民館館長 中西恒博さん(左)と石橋道則さんの息子 石橋秀通さん(中央)



石橋道則さんの顕彰碑

顕彰碑の建立

石橋道則さんの功績をたえ、生前石橋さんと親交の深かった有志30数人が資金を出して平成26年11月に顕彰碑を吉藤ホタル公園に建立しました。



ホタル観賞会の様子

に響きます。

創立70周年記念創作劇



鴨川中学校では平成28年度に創立70周年の記念行事として、坊っちゃん劇場とコラボし、「想いのホタル、僕らのヒカリ」という創作劇を行いました。鴨川地域のよさを再認識し、地域愛を育み、地域に根ざした学校づくりに努めました。

創作劇は、当時の3年生全員が出演者や音響、パネルづくりなど8つのセクションに分かれて自分たちで取り組みました。挿入歌「明日への扉」の歌詞も代表生徒が考えました。たった一度の公演でしたが、私たちも、時代が変わってもその心を大切にしていきたいです。



— 明日への扉 —

振り返れば
今まで歩いた道がある
つらいことも 悲しいことも
暗闇でさみしいときも
さあ勇気を出して
明日への扉を開こう
一人じゃないよ みんながいるよ
これまででも そしてこれからも
僕らはたくさんの新しい
明日を分かち合える
力を合わせて
みんなで泣いて笑って
後悔しない今日を
明日につなげよう
明日への扉 勇気を胸に
明日への扉 心を開いて
一歩踏み出せ

一人じゃないよ みんながいるよ
これまででも そしてこれからも
僕らはたくさんの新しい
明日を分かち合える
歩き続けよう
みんなで泣いて笑って
二度とない今日を
明日につなげよう
明日への扉 希望を胸に
明日への扉 自分を信じて
仲間を信じて



「語り継ぎたいふるさと松山 百話 I・II・III・IV」もあります

松山ゆかりの先人78人と伝統文化や歴史のお話17話を掲載しています。購入方法など詳細は市教育研修センター事務局 ☎9895144へお問い合わせください。



広がれ！ ふるさと松山の心

先人と文化の読み物教材

ホタルの生育に携わった人の話を聴き、自然に対する愛情を深く感じました。これからも私たちの潮見地区を大切にしたいです。



(左から) 篠森 珂奈美さん、右崎 心渚さん、小島 由衣さん (いずれも2年生)

潮見地区を大切にしたい